

西光寺だより

第二四五号 令和四年 九月一日発行

夏も終わりに近づき、朝夕は少しずつ秋の気配を感じられるようになってきました。

お月さまが1年の中で最も美しく見える季節であります。

秋の真ん中に出る満月を十五夜といい、旧暦では8月15日、そして現在の暦では9月7日～10月8日までに出現する満月のことをそう呼びます。

古来から月を愛でる風習は日本にもありましたが、十五夜のお月見が始まったのは平安時代のこと。当時の貴族たちは、月を眺めながらお酒を飲んだり、船の上で詩歌や管弦を楽しんでいたようです。日本文化が豊かに広がった優雅な時代ですね。

その後、民間の間にまで十五夜の風習が広まったのは、江戸時代に入ってからのこと。平安時代の貴族とは異なり、無事に稲を収穫できた喜びを分かち合い、感謝する日だったそうです。

時代によりその意味合いは変わってきませんが、いつの時代もそこにあるだけに見える人の心を潤してくれます。見る人によって感じることは違うかもしれませんが、この先も美しい月を見て、美しいと感じられる心を大切にしていきたいものです。

今年の十五夜は9月10日(土)。美しい月を眺めながら、今こうしていられることに感謝したいと思うことであります。 合掌



◆今月の言葉◆

武器を

持ったから

恐怖が

生じたのだ

お釈迦さま

8月はヒロシマ・ナガサキの「原爆の日」。唯一の被爆国として、二度と悲惨な出来事を繰り返さないよう、核兵器・戦争の恐ろしさ、悲惨さを続けることが重要です。

「世界の平和は、核兵器を含む軍事力の均衡で維持されている」という考えがあります。ある部分では世界の現実を反映している言葉なのでしょうが、それは真の平和ではありません。

お釈迦さまのお言葉のように、敵対する両国の一方が武器を持たず、相手国は不安や恐怖を抱き、それ以上の武器を持つようになります。そして、相互不信の連鎖は、全人類を35回以上も滅亡させる1万数千発の核兵器を生み出したのです。

このお言葉に続いてお釈迦さまは、争いの本当の原因は、武器を持つ者の心に突き刺さった「煩惱の矢」であり、「この矢を抜かない限り真の平和は訪れないと諭されました。この「煩惱の矢」とは、自己中心的にしか物事をとらえることができない、人間の特性を表しています。

「原爆の日」を機縁に、私の本質を見つめ直したいと思えます。あらゆる人が安心して、心豊かに暮らせる世界が実現することを思いながら。

◆先月の報告◆

8月15日(月) 西光寺本堂にて孟蘭盆会法要を厳修致しました。コロナ感染者が増える中、お集まりいただき、いのちを繋いで下さったご先祖さまを思い、阿弥陀経のお勤めとお焼香を致しました。

そして、今年の夏は、新たな経験をしました。

近隣の御住職方がコロナ感染され、代務でご葬儀やご法事をお勤めさせていただきました。

ですが、そのおかげで普通のことと特別であると身をもって感じ、またこのご縁がないと出会えていなかった出会いがあったと思うと、互いに支えられていることを感じた時間でもありました。

こうして普通に皆さんとお勤めができていくということに、感謝しながらのお時間でありました。



◆十一月の行事◆

十一月 二十三日(水・祝)

報恩講法要

午後二時～ 正信偈

午後三時～ ご法話

西光寺本堂

◎布教使 岡 玲 師(茨木西組 善照寺住職)

※ご法話は一座のみ(昼座だけ)であります。

※午後七時の法要はありません。

※その時の感染状況により内容が変更するかもしれませんが、ご了承下さい。

※体調や感染にご不安な方はご遠慮下さい。

浄土真宗本願寺派 白毫山 西光寺

大阪府茨木市西河原一七二

電話 〇七二一六二二一四七九四

FAX 〇七二一六二二一九二九一

<http://www.osaka-saikouji.net/>